

○二月四日午後三時より講堂に於て日米交換教授の爲に舊臘來朝せられしメービー博士の講演

有之候。博士はアウトトルック社副編輯者。文學者として令名ある方の由、小さき日米國旗を胸にかざして新渡戸博士と共に臨場せられ候。

明快なる辯舌もて現時に於ける米國の若き婦人につきて述べられ候。小此木先生の流るゝが如き御通譯、先生を煩はさでは半啞なるを悲しむ同時に我が國語の普及せむことを思ひ候。

○二月十一日常ならば遠き建國の昔を懐ひ帝國の將來を祝して大講堂は夜會に花やぎ候ものを此の夜空は例年になく鈍色にかき曇りて日影も見ゆず、咽ぶが如き木枯の風いと物凄く吹きすさみ候ひしかば人は多く暖爐を抱いて、思ひのやる方なきを嘆じ申候。

○今年の寒さは中々に烈しく數日前までは猶去歲の名残の白雪さへ消えがてに庭の隅などに見出さるゝ位にて候ひし程に一時は流行性寒冒猛威を奮つて各室を呪ひ來りし有様に候ひしがきのふけふ漸く凍りつきし土も柔かに濕り候へば

殆ど退却致し人々の面も春めき申候。校園の梅も今日珍らしく一輪笑み初め申候。

○四年生も既に敎生第三期に足をふみ入れし昨今漸く敎養の趣味を感得致し候。學科生の頃は人事とのみ思ひし奉職地の聲も今は自ら身の上と成りしかと思へば夢のやうに候。この櫻の綻ぶ頃はなご想へばそれ迄に是非眼を通したき書物、先生に伺ひたき事柄、觀て置きたき場所、筆記して置きたき物の數々限りもなう菅の根の長き春の日もなかくに靜心なき此の頃の生活御經驗遊ばされし姉君達には御思ひ出の深きことにて候ふべし。

○寮舎の狹隘なる爲に來學年度もいづれ一組は外舎に出づべき運命を有し居り候エスキモーは冷たき水の家を花の巴里よりも慕ひ候ふとがやまして清きお茶の水の月の捨て難きははいはずもがなにて候ふ今度は三年か四年かなど、風説の翼は自由に飛び廻り居り候。

○さる程に去年より着手せられし東校舎の増築は此の頃漸く竣功に近づきて木造には侍れど煉

瓦建築に連るに同じ赤色を以て塗られ開かるべき將來を近日に待ちて新らしき木の香を放ち居り候。東校舎階上の廊に立ちてこの中庭こそテニスには相應はしけれとほゝ笑むは選手の君達に候。かくして校舎も日に完成に近づき申候。終りに臨んで皆様の御健康に益御活動あらせられむ事を祈り上げ候(二月二十日)

◎熊本より

堀尾 ともめ

母を失ひて三日苔の衣の露いとしげき一月二十三日といふに御端書拜見致し候。文科會誌上に何かものせよとの仰せ、誠に忝けなくは存じ候へども。たらちねの愛の乳汁を失ひし身はたゞたゞ思ひまごふ事のみ澤にてわれかの心地にて明し暮せるたゞすまい、とてもまごまりたる思想も御座なく候へばたゞ返信にのみとゞめ申べく候。

母は私の卒業をのみ待ちて水仕の業さへ自ら勤め居たるものにて御座候。秋の雁四度歸り春

の櫻五度咲きて、私は人後に立ちつゝも故郷に錦を飾る身と相成り申候。しかも家庭の人として學校に勤むるてふ同級生中の最大幸福者の一人に數まへらるゝてふおほけなき幸を受くる身と相成り申候。親子はらからまごゝして樂しき憂き敎への園の出來事を語る身と相成り申候。然れども、此樂みはたゞ束の間の夢にて候ひき。畏くも世は諒闇の鈍色にとざされたれど、少なき我が家自身としては一家揃ひて先づめでたき新年よと心ばかり汲みかはせし屠蘇の薫りさへ醒めざる一月九日といふに母は病の床に打臥し申候。かりそめとのみ思ひしいたづきは頓に重り行き、地方に於ける名醫の調劑も更にその効なく、水輪かげびえて寒禽の聲さびしき一夜母は溘焉として逝き候。時之大正二年一月二十日にて候ひき。母が子供を抱けるは美術品中の最大美術品と聞き候。私の家には永久に此尊き美術品を見得べからず相成り申候。あゝ。古の業平の中將ならねど私も亦千代もと祈りたる人の子にて候ひき。かく早く別れむとは神ならぬ身

知る由なく、ありのすさびに任せてはするぶん
我儘も致し候心配もかけ候。未だ卒業後日淺き
に事候へば何一つとして心を安めし事も候はず
今よりこそ思ひ候ひしを。よし鼎は連ねずとも
心を入れし養もがなと思ひしものを。早やその
主はあらず「木欲静風不止」悠々として流れ盡せ
ぬ白川のほとり、龍田おろしのすさぶ所、かれ果
てたる白楊の下新しき墓標に萬斛の涙をそゞげ
る孤兒の身の上御同情なされ度候。私は同胞六
人に候へども姉二人は既に嫁して他の家の人
に候。修學中の二人の弟頑是なき一人の妹の後
見るべき大責任は自然と私の肩におり申候。し
かも私は私の中からだにあらす公のものにて候力
なき身は學校のつとめものごとくしく玉に
もまされる人の寶をいかにし果つるかご心も
となう侍りしものを。今よりはこの兩大責任を
いかにして果すか。思へばそら恐ろしく御座候
且つ私は精神上にも身體上にも弱きものにて候
あゝいかにせばよろしきやなしはせでたと思ひ

福岡より

八尋 かめ

まごふのみにて御座候私は敬し奉る諸先生なつ
かしき同窓諸姉の尊き御教導と暖き御同情とを
切に希望して止まざるものにて御座候。かしこ
編輯者より
一度はあはですむべきにあらぬ別れに候ふものながら、盡
きせぬ悲しみは、無量の恩愛に報い得ざりし名残をしまに
候ふを、此の頃の御上の御なげき、さぞしく察しまつり
ては、奉るべき御慰の言葉もおぼゆる候。都の塵につま
れて事繁う明し暮らし候朝夕にも、ふさ「母亡き後の我が
身」を想ひ候うては、いひやうもなきやるせなさを感じ申
候を、君はまのあたり慈ふかき母君に別れさせ給ひしよご
思へば、何とも申し上げやうもござなく候。されど、父君
御健在の御事なればそなた様に頼らせ給ひ、事へさせ給
ふ御事こそ、せめての御心やりには候はむ。御弟妹様方は今
はひたすら、御許様をたのみきこえ給はむに、さる方に御
心強く萬すおきてさせ給へやと祈り上げ候。御身を御大切
にこそは只今念じ上ぐる唯一のこゝろにござ候。かしこ。

よこの御下命下され辱く拜し上げ候。身に餘り
たる仰せをせめて近況なりとも存じ候うち、
俄に病魔におそはれ欠勤致し候やうの始末にて
心にかゝり乍ら失禮致し候、彼是いたしをり候
ほどに期日も相すぎ候ことなれば定めて御迷惑
相かけ候こととたい恐縮の外これなく候。先は
延引ながら御詫まで。かしこ
尙本誌上にて、本校諸先生の國語教授に關
する御意見色々御示し下され候は、一層の仕
合はせと存じ候。

編輯者より

御病氣にあらせられし由、その後如何坐し候はむ、すゑ
ふん御大切に遊ばされ度念じ上げ候。
國語教授につきて、諸先生方の御意見をこの仰せ、會員
一同にまつて有益なるべき事に候へば、いづれその運びに
致すべく一寸御答へ申上げ候。以上

岡山より

井 淵 英

御端書ありがたく拜見いたし候。御多忙の御
身を以て常に本會のため御盡力のこと謝し參ら
せ候。才て此の度はつまらぬ身にも何か寄せて

よこの御頼みもだし難くて何かと考へ居り候へ
どもとみには浮びも來ず、舊稿など取り出し候
ひしかども、かびの生えたるもの皆様の御目に
かけんも恥かし候まゝさし控へ申候。此の次
までには何か申し上げむと存じをり候に付、何
卒此の度は御許したまはり度候。もはや御承知
にても候はむかなれど、本年四月よりは同期卒
業生戸田壽様當校に御務めの事に定まり申候へ
ばこれにて同期卒業の三科の人々揃ひてつとむ
る樂しさを今より豫想しつ、其の日の來るを待
ち居り候。先は失禮ながら一等御返し申上候、
編輯者より

御多忙中を我儘なる御願ひ致し候を、ようぞ御返事たまは
せられしと御うれしく存じ上げ候。此の次までには玉稿賜
はせらる、由ありがたく御待ち申し上げ候。かつて一年間
の御居間なりし五の側の櫻の再び、あかう開かむ日も近づ
き參り候。上原株、御許業二方の御揃遊ばさるゝを御羨し
き御事と誰れもく存じ上げ候ひつるに、なほ四月よりは
戸田様御一緒に御なり遊ばさるゝさはよくくの御幸運と
御よろこび申し上げ候。